

武田則明さんロドニ - 賞受賞

山岳会会員の武田則明さんが神戸を元気付けた人や団体に贈られる市民賞「第20回ロドニー賞」を受賞されました。皆さんご存知の千本杉ヒュッテのデッキ増設は武田さんの設計と指揮にて完成しました。ヒュッテは建設50年、デッキも建設10年を迎え、氷ノ山ヒュッテを中心に記念行事を行いたいものです。

□記事-1

<http://mainichi.jp/area/hyogo/news/20101123ddlk28040329000c.html>

ロドニー賞:神戸の景観保全に尽力、建築家・武田さんが受賞 / 兵庫

神戸を元気付けた人や団体に贈られる市民賞「第20回ロドニー賞」に建築家の武田則明さん(70) = 神戸市兵庫区 = が選ばれた。23日午後1時半から、神戸市中央区の神戸風月堂本店ホールで授賞式がある。

武田さんは、建築家としての活動に加え、歴史的な建造物の保存活動の第一人者として活躍。芦屋市の旧山邑邸や神戸市中央区の旧県庁(現県公館)などの保存を通じて街づくりに尽力した点が評価された。

「いいものは、未来に向けて残していかないと」。武田さんは、「食の大阪」に対し「住の街」と呼ばれる神戸のアイデンティティーを守るためにも景観保全に力を込める。

神戸大工学部建築学科を卒業して、設計事務所に入社。東京や北海道でオフィスビルなど高層建築に携わった。その後、神戸に戻り「都市・計画・設計研究所」で建築を含めた都市計画の研究を始めた。六甲山を背に、海に向かって南向きの斜面が続く立地は、地中海のようで住環境に恵まれている。一方で、神戸港開港時から異文化を柔軟に吸収する「神戸らしさ」も都市景観に残していく必要性を感じた。

現在は自身の事務所で住宅などの設計をこなす傍ら、神戸山手大で講師として学生と共に異人館などを見て回る。「未来は、過去の延長にある。開港からの歴史が短い神戸だからこそ、100年後の姿を想像するために街並みを残すことが大切なんです」と訴える。

【大金紗知子】

□記事-2

<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20101124-00000001-san-l28>

神戸のデザイン世界に発信「喜びのロドニー賞・武田さん

[産経新聞](#) 11月24日(水)7時57分配信

神戸っ子を驚かせ、元気づけた人に贈られる第20回「ロドニー賞」の授賞式が23日、神戸市中央区の神戸風月堂本店ホールで開かれ受賞した建築家の武田則明さん(70)が喜びを語った。

授賞式には、選考委員ら約30人が参加。選考委員長で風月堂の下村俊子会長から御影石の記念品を受け取った武田さんは「わが家の家宝になる。本当にありがとうございました」と話し、今後の目標について「神戸の建物などのデザインを日本だけでなく世界に発信していきたい」と述べた。

武田さんは長年「港まち神戸を愛する会」の会長として、旧兵庫県庁舎など神戸の近代建築の保存に尽力。近年は産業遺産の調査にも積極的に取り組んでいる。

「ロドニー」とは、慶応3(1868)年の神戸開港の際、祝砲を放って神戸の人々を驚かせたイギリス艦隊旗艦の名前。武田さんに贈られた記念品は「ロドニー」の砲弾と武田さん自身をイメージし、彫刻家の小林陸一郎さんが作成したという。

授賞式の後、武田さんが「私・神戸・建築」をテーマに記念講演し、神戸の街や建築についての思いを話していた。

□神戸の今



発展を続ける港・神戸 新しい中にも古き良き街並みが残っている。
菊水山頂上から(写真:井上達男)